

2017年 定時社員総会 議案書 (校正版)

開催日時：平成28年5月22日（月） 16時～17時

会 場：食糧会館（全米販） 5階 会議室 中央区日本橋小伝馬町15-15

TEL 03-4334-2155

一般社団法人 日本飼料用米振興協会

一般社団法人 日本飼料用米振興協会

2017年 定時社員総会 議案書

開催日時 平成29年5月22日(月) 16時～17時
会議場 食糧会館(全米販) 5階 会議室 中央区日本橋小伝馬町15-15
TEL 03-4334-2155

議決権のある社員総数 21個
出席正社員(木徳神糧)
出席正社員(シンジェンタジャパン)
出席正社員(生活クラブ事業連合生活協同組合連合会)
出席正社員(全国農業協同組合連合会)
出席正社員(昭和産業)
出席正社員(NPO未来舎)
出席正社員(中野区消団連)
出席正社員(海老澤恵子)
出席正社員(信岡誠治)
出席正社員 岩野千草(中野区消費者団体連絡会・会員)
出席正社員 谷井勇二(個人)
出席正社員(若狭良治)

正社員(中国工業)
正社員(秋川牧園)
正社員 木村牧場(個人)
正社員 滋賀県飼料用米協議会(個人)
正社員(羽賀郁子)
正社員(谷 清司)
正社員 菊地実
正社員 吉瀬雅彦
正社員(東京農業大学 谷口信和 個人)

総社員の議決権の数 21個

【議 事】

1. 開会挨拶と資格審査報告 理事・事務局長 若狭良治
2016年度 正社員数21中 本人出席(10) 委任状(2) 2017年5月22日開会時現在
2. 議長選出
定款第13条～16条の定めによる
代表理事 海老澤恵子が総会を招集し、議長に就く。
議長は、出席を確認し、本定時総会が適法に成立した場合、直ちに開会を宣言、議事に入る。
3. 議長挨拶(理事長:海老澤恵子)
私たちの振興協会は、設立後、4年目に入り、昨年度の事業として、農林水産省と共同開催で「飼料用米収量日本一表彰」事業を実施しました。また、設立一年目より、「超多収穫米普及連絡会」以来の伝統を受け継ぎ、この3年間、通算8回目、9回目、今年の10回目となる「飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会～飼料用米普及のためのシンポジウム2015, 2016, 2017～」を引き続き開催してまいりました。特に今年は「飼料用米多収日本一表彰式、飼料用米普及のためのシンポジウム2017」として新しいスタイルでの開催となりました。

来年3月9日に、今年に引き続き、通算11回目として「飼料用米多収日本一表彰式、飼料用米普及のためのシンポジウム2018」を東京大学・弥生講堂で開催することで会場の確保を行っています。

飼料用米については、様々な状況の下で、それなりに進んでおりますが、TPPやそれに発生する「主要農作物種子法廃止法」の急な採決（衆議院5時間、参議院3時間の審議）という状況もあり、日本の将来の食の安全や食料自給率の向上などの面で、問題が大きくなっております。

そのような状況ですが、皆様と多くの課題について検討を加え、進んでいきたいと思っております。

これから皆様で審議決定していただく活動方針を高く掲げて、共に飼料用米の普及と食糧自給率の向上を目指してまいります。本日はよろしくようお願い申し上げます。

第I議案 2016年度活動報告（2016年4月1日～2017年3月末）

1. 「飼料用米多収日本一表彰事業」を農林水産省政策統括官付穀物課と共同開催で開催した。
事業を推進するにあたり、全国農業協同組合中央会（全中）、全国農業協同組合連合会（全農）、協同組合日本飼料工業会に金銭面で多大なる後援をいただき、日本農業新聞からは表彰状、褒賞でのご協力をいただいた。
2. 「飼料用多収獲米の栽培に関する研究」を全国農業協同組合連合会、東京農業大学農学部畜産学科畜産マネジメント教室、日本飼料湯米振興協会の三者で行った。オオナリ、関東飼271号。
3. 「コメ政策の今後の方向についての意見交換会」を2016年11月1日、食糧会館、参加者57名で開催した。
4. 「飼料用米多収日本一表彰式、飼料用米普及のためのシンポジウム2017」を2017年3月17日に東京大学弥生講堂（一条ホール・ロビー・会議室）で開催した。
「シンポジウム、資料展示、試食会」を開催し、農林水産省生産局畜産部飼料課を通じて後援を受けた。「表彰式」は農林水産省と共同開催を行った。参加者260名。

5. 2016年度の会員動向

事業体正社員

新たに株式会社秋川牧園、昭和産業株式会社が加入した。

事業組織としては、木徳神糧株式会社、生活クラブ事業連合生活脅威同組合連合会、中国工業株式会社、シンジェンタ・ジャパン株式会社、全国農業協同組合連合会と合せて7事業体となり、事業運営に資金的に厚みが増した。引き続き、新会員の拡大に努める。

非営利事業体正社員、個人正社員

中野区消費者団体連絡会、NPO未来舎、木村牧場、東京農業大学畜産学部、（個人会員省略）

事業体賛助会員、非営利団体賛助会員

日本生活協同組合連合会、生活協同組合おかやまコープ、庄内みどり農業協同組合、株式会社平田牧場、栃木開拓農業協同組合、滋賀県飼料米利活用推進協議会、太陽工業株式会社

加美よつば農協は、賛助会員の希望が出ていたが、2017年度からの登録とした。内部手続きの遅れによる。

6. ホームページの内容については、農林水産省との共同事業の掲載などで、閲覧者が6,000代になった。今後、わかりやすい掲載スタイルで一層の閲覧者の拡大を図りたい。
7. 特別報告「飼料用米多収日本一表彰式、飼料用米普及のためのシンポジウム2017」

農林水産省と共同開催で「飼料用米収量日本一 表彰事業」を実施し、通算10回目となる「飼料用米普及のためのシンポジウム」と共同開催で表彰式を開催した。

「表彰式とシンポジウム」は東京大学〈農学部〉弥生講堂（一条ホール、ロビー、会議室）で行った。

会場の確保では農学部鈴木宜弘教授のご尽力に感謝いたします。

参加者は、260名の盛会であった。

シンポジウムは農林水産省（生産局畜産部飼料課）から後援をいただくと同時に、表彰事業は農林水産省（政策統括官付穀物課）との共同事業となった。

シンポジウムでは基調講演に農林水産省の穀物課長、飼料課長、表彰式では、農林水産副大臣、政策統括官の出席を得て、また、全中、全農、協同組合飼料工業会、日本農業新聞の表彰状授与など華やかなものとなった。

併せて開催した試食会、資料展示会も弥生講堂のロビーや会議室を利用して充実したものとなった。

特に、資料展示は、前2回の農学1号館の2階、3階に分散していたことから見て、充実した取り組みとなり、参加者からの評価も高かった。改めて、ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。

また、午前10時30分開館、午前11時～午後5時までの長時間の開催となったが、飼料用米の生産研究から物流、保管、消費に至る取り組みがよくわかったとの評価と併せて、長丁場での運営改善に意見が寄せられています。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻を今後への期待とご支持と考え、身を引き締めて活動を積み上げてまいりたいと思います。

シンポジウム会計報告は、事務局若狭より議案書に基づき報告します。

飼料用米普及のためのシンポジウム2016 会計報告

収入	協賛金	200,000円	
	飼料用米多収日本一からの分担金	198,444円	
	振興協会負担金	474,754円	
		<hr/>	
		873,198円	
支出	シンポジウム費用		
	会場費（東京大学）弥生講堂	176,000円	
	配布講演資料（プリントバック）	198,800円	
	講師謝礼	220,027円	
	展示会場看板等	194,992円	
	諸掛（紙皿、講師弁当、講師お茶代、受付交通費、懇親会充当費用）		
		83,379円	(873,198円)
		<hr/>	
	差額	0円	

振興協会負担金として、474,754円を補てんした。

尚、農水省より後援名義を頂いているが、その際の会計処理は黒字にならないことを条件としており、特段の追加処理を行わずこのままの処理とした。

第Ⅱ議案 2016年度決算報告と承認の件（2016年4月1日～2017年3月末）

事務局より、議案書に基づき活動計算書、貸借対照表、財産目録について報告する。

決算は、吉野会計事務所（さいたま市桜区西堀2-13-10）による監査を受けた。5月19日本協会の岩野千草監事の監査を受けた。5月22日

会計監査報告書

平成 29 年 5 月 19 日

一般社団法人日本飼料用米振興協会
理事長 海老澤恵子 殿

吉野会計事務所
税理士 吉野康幸



私は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 199 条の規定に基づき、一般社団法人日本飼料用米振興協会の平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの事業年度の財務諸表の作成に係る会計帳簿、領収書等について会計監査を行った。

会計監査の基準は、財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることであり、わが国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。またこの会計監査には当該財務諸表の表示について検討し、助言することも含んでいる。

私は、上記財務諸表が、わが国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、一般社団法人日本飼料用米振興協会の当該財務諸表に係る会計期間の財産の状況を適正に表示しているものと認める。

なお、一般社団法人日本飼料用米振興協会と私との間には利害関係はない。

監査報告書

一般社団法人 日本飼料用米振興協会


理事長 海老澤 恵子 殿

第3期事業年度(2016年4月1日～2017年3月31日)の事業報告、貸借対照表、活動計算書、財産目録及び附属明細書を2017年5月22日に監査した結果、適法に処理、記載されていると認める。

以 上

2017年5月22日

一般社団法人 日本飼料用米振興協会

監 査 岩野 千草  印

(1) 日本飼料用米振興協会 本体事業

2016年度 活動計算書(予算/決算対比)

2016年 4月 1日から2017年 3月31日まで

一般社団法人日本飼料用米振興協会

単位:円

科 目	金 額	
	予算(計画)	決算(実績)
I 経常収益		
1 会費収入	950,000	842,000
2 入会金収入	200,000	100,000
3 協賛金	300,000	200,000
4 研究委託費		241,920
5 振替金		198,444
6 雑収入		0
7 受取利息		4
経常収益計	1,450,000	1,582,368
II 経常費用		
旅費交通費	150,000	66,410
通信費	60,000	53,715
会議費(シンポ会場)	150,000	245,136
資料購入費	13,000	36,507
資料作成費	180,000	207,525
事務用品費	50,000	183,302
講師謝礼	150,000	220,027
租税公課	120,000	99,754
外注費	150,000	173,392
支払報酬	80,000	80,432
事務費	0	756
経常費用計	1,133,000	1,366,956
当期経常増減額		215,412
III 経常外収益	0	
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		215,412
当期法人税、住民税及び事業税		0
当期正味財産増減額		215,412
前期繰越正味財産額		-195,219
次期繰越正味財産額		20,193

貸借対照表

2017年 3月31日現在

一般社団法人日本飼料用米振興協会

単位:円

科 目	金 額		
I 資産の部 1 流動資産 現金及び預金 未収入金 流動資産合計 2 固定資産 固定資産 固定資産合計 資産合計	773,607	0	773,607
	0		0
			773,607
II 負債の部 1 流動負債 未払金 預り金 流動負債合計 2 固定負債 固定負債 固定負債合計 負債合計	743,261	10,153	753,414
	0		0
			753,414
III 正味財産の部 前期繰越正味財産 当期正味財産増減額 正味財産合計 負債及び正味財産合計		△195,219	215,412
			20,193
			773,607

財 産 目 録

2017年年 3月31日現在

一般社団法人日本飼料用米振興協会

単位:円

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
普通預金(三菱 UFJ 銀行八王子支店)	773,607		
未収入金	0		
流動資産合計		773,607	
資産合計			773,607
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金			
交通費・事務用品費ほか	165,000		
シンポジウム立替金など	203,379		
シンポジウム講師謝礼など	110,000		
未払分(事務局)	264,882		
未払金合計	743,261		
預り金(源泉所得税)	10,153		
流動負債合計		753,414	
負債合計			753,414
正味財産			20,193

(2) 飼料飼料用米多収日本一表彰事業

2016年度 活動計算書(予算/実績)

2016年 4月 1日から2017年 3月31日まで

一般社団法人日本飼料用米振興協会

単位:円

(1)収入の部

科 目	2016年度実績	
	計画	実績
I 経常収益		
繰越金(預金)	0	0
特別会計協賛金	2,300,000	2,800,000
金利	0	14
口座開設費	0	1,000
経常収益計	2,300,000	2,801,014

(2)支出の部

科目	2016年度実績	
	計画	実績
資料費	500,000	5400
会議費	26,900	65,144
広報費用	0	239,220
ホームページ管理費	0	100,000
旅費	1,201,350	617,156
褒賞経費	300,000	603,872
通信費	13,000	4,900
諸掛	0	5,832
調査費	150,000	0
予備費	108,750	0
支払い消費税	0	42,720
残高証明書(銀行)	0	756
合 計	2,300,000	1,684,244

繰越金		0
総収入		2,801,014
総支出		1,684,244
残 額		1,116,770
今年度繰越金		1,116,770

貸借対照表

平成29年(2017年) 3月31日現在

一般社団法人日本飼料用米振興協会

単位:円

科 目	金 額		
	計画	実績	残高
I 資産の部			
1 流動資産			
現金及び預金	1,212,420		
未収入金	0		
流動資産合計		1,212,420	

2 固定資産			
固定資産		0	
固定資産合計			0
資産合計			1,212,420
II 負債の部			
1 流動負債			
未払費用	47,974		
未払費用	47,676		
その他流動負債	0		
流動負債合計		95,650	
2 固定負債			
固定負債	0		
固定負債合計		0	
負債合計			95,650
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		0	
当期正味財産増減額		1,116,770	
正味財産合計			1,116,770
負債及び正味財産合計			1,212,420

財 産 目 録				
平成28年(2017年) 3月31日現在				
一般社団法人日本飼料用米振興協会				
単位:円				
科 目	数量	金 額		
I 資産の部				
1 流動資産				
普通預金(三菱 UFJ 銀行中野支店)		1,212,420		
未収入金		0		
流動資産合計			1,212,420	
資産合計				1,212,420
II 負債の部				
1 流動負債				
未払費用(交通費他)		95,650		
その他流動負債		0		
流動負債合計			95,650	
負債合計				95,650
正味財産				1,116,770

第Ⅲ議案 2017年度活動計画(2017年4月1日~2018年3月末)

1. 第2回目となる「平成29年度 飼料用米多収日本一表彰事業」を開催する。
2. 法人化第4回目、通算11回目となる「飼料用米普及のためのシンポジウム」を、今年に引き続き、「飼料用米多収日本一表彰式、飼料用米普及のためのシンポジウム2018」を次の要領で開催します。

開催日程：2018年3月9日（金）（時間帯は、未定。朝9時から夕刻6時まで確保済み）
 会場：東京大学 弥生講堂（一条ホール、ロビー、会議室）
 テーマ：飼料用米の普及のために必要な方策を研究から利用の各分野で取り組みや成果を報告、
 飼料用米利用による畜産事業の発展を目指しましょう。

3. 2017年も、引き続き、「飼料用多収獲米の栽培に関する研究」を全国農業協同組合連合会、東京農業大学農学部畜産学科畜産マネジメント教室、日本飼料湯米振興協会の三者で行います。
4. 今後の飼料用米、食用米、畜産の今後の動向を探り、飼料用米に対する提言を取りまとめ、新たな中期事業計画を策定する。

主要作物種子法廃止法が成立し、2018年4月から実施される中で、今後の日本における食料自給率や将来の主要食物の貴重な資源を保護し、今後の改良開発に必要な方策を検討し、提言していく。

飼料用米の取り組みをさらに進めていくために ～日本飼料用米振興協会の提言として～

- (1) 水田フル活用政策(特に飼料用米)の法制化
 - ① 飼料用米はわが国の食料安全保障の最大の要
 - ② 飼料用米は水田を水田として次代へ継承していく要
 - ③ 水田(国土)と畜産を結びつける循環型畜産農業の要
- (2) 飼料用米の新たな保管・流通体系の構築
- (3) 飼料用米の多収栽培に向けた支援策の強化

現状 48万トン ⇒ 当面の目標 110万トン ⇒ 将来への目標 450万トン
 (輸入トウモロコシの10%) (輸入トウモロコシの40%)

第IV議案 2017年度予算案の提案および審議

(1) 会費収入計画

会員会費	事業体	1,180,000 円	
入会金	事業体	100,000 円	
協賛金		200,000 円	
研究受託費		240,000 円	
分担金		300,000 円	(日本一表彰事業)

概算収入見込み 2,020,000 円

(2) 特別会計 飼料用米終了日本一表彰事業

繰越金	1,116,770 円
協賛金	2,800,000 円
概算収入見込み	3,916,770 円

総合計収入見込み 5,936,770 円

(1) 日本飼料用米振興協会 本体事業

2017年度 活動計算書(予算)
 2017年 4月 1日から2018年 3月31日まで

一般社団法人日本飼料用米振興協会
 単位:円

科 目	2016年度実績		2017年度計画	
	計画	実績	計画	実績
I 経常収益				
1 会費収入	950,000	842,000	1,180,000	
2 入会金収入	200,000	100,000	100,000	
3 協賛金 1	300,000	200,000	200,000	
4 研究受託費		241,920	240,000	
5 振替金		198,444	300,000	
6 雑収入(金利)		0	0	
経常収益計		4		
	1,450,000	1,582,368	2,020,000	

II 経常費用				
交通費	150,000	66,410	150,000	
通信費	60,000	53,715	60,000	
会議費	150,000	245,136	100,000	
資料(書籍)購入費		36,507	40,000	
資料作成費(印刷費)	13,000	207,525	220,000	
事務用品費	180,000	183,302	120,000	
講師謝金	50,000	220,027	200,000	
租税公課	150,000	99,754	120,000	
外注費	120,000	173,392	300,000	
会計事務所監査費用	150,000	80,432	80,432	
事務費(振込費用)	80,000	756	756	
予備費	0	1,366,956	30,000	
経常費用計	1,133,000	215,412	1,421,188	
当期経常増減額			598,812	
III 経常外収益	0	0	0	
経常外収益計		0	0	
IV 経常外費用				
経常外費用計		0	0	
税引前当期正味財産増減額		0	0	
当期法人税、住民税及び事業税			0	
当期正味財産増減額		215,412	598,812	
前期繰越正味財産額		-195,219	20,193	
次期繰越正味財産額		20,193	619,005	

(2) 特別会計 飼料用米多収日本一表彰事業

2017年度 活動計算書(予算)

2017年 4月 1日から2018年 3月31日まで

一般社団法人日本飼料用米振興協会

単位:円

(1)収入の部

科 目	2016年度実績		2017年度計画	
	計画	実績	計画	実績
I 経常収益				
繰越金(預金)	0	0	1,116,770	

特別会計協賛金	2,800,000	2,800,000	2,800,000	
金利	0	14		
口座開設費	0	1,000		
経常収益計	2,800,000	2,801,014	3,916,770	

(2)支出の部

科目	2016年度実績		2017年度計画	
	計画	実績	計画	
資料費		5400	20,000	
会議費		603,872	93,000	
広報費用		239,220	500,000	
ホームページ管理費		100,000	100,000	
旅費		1201350	918,000	
褒賞経費		617156	633000	
通信費		4,900	10,000	
諸掛		5,832	0	
調査費		0	0	
予備費		0	0	
支払い消費税		42,720	50,000	
残高証明書(銀行)		756	0	
合計		1,684,244	2,324,000	

繰越金		0	1,116,770	
総収入		2,801,014	3,916,770	
総支出		1,684,244	2,324,000	
残 額		1,116,770	1,592,770	
今年度繰越金		1,116,770	1,592,770	

第V議案 今回は、特段の問題がないため、定款に基づき（2年毎）、役員交代補充は行いません。

第VI議案 新規会員の拡大の推進

引き続き、2017年度 新規会員の開拓を推進する
ヤンマーアグリジャパン株式会社（2016年度第12回理事会で加入を決定）

代表理事 挨拶、閉会

参考資料（組織内）

飼料用米多収日本一表彰式、飼料用米普及のためのシンポジウム2017

開催報告

2017年4月19日

一般社団法人 日本飼料用米振興協会

理事長 海老澤恵子

平成29年（2017年）3月17日（金）に東京都文京区弥生一丁目1番1号の東京大学農学部（弥生キャンパス）内の弥生講堂（一条ホール、会議室、ロビー）で、標記「飼料用米多収日本一表彰式、飼料用米普及のためのシンポジウム2017」を開催しました。

参加者は255名。

参加者の20%は、生活協同組合等の組合員、役職員が参加しました。

生産者や消費者、稲作・畜産農家、自治体（都道府県）・行政など多くの方が参加しました。

また、日本における食料自給率の向上を目指し、国内畜産事業へのより低コスト飼料用米の拡大を目指し、生産から保管物流、利用畜産品（豚肉・牛乳・鶏卵・鶏肉等）、各々の段階における研究、開発などのそれぞれの立場から多くの成果と今後の課題などを報告、提案がされました。

シンポジウムは、若狭良治（理事・事務局長）の総合司会で進行しました。

第一部 シンポジウム 開会11:00 開会 12:00

主催者挨拶 一般社団法人日本飼料用米振興協会 理事長 海老澤 恵子

連帯の挨拶 日本生活協同組合連合会 総合運営本部 政策企画部長 小熊 竹彦

活動報告 「飼料用米における生産コスト低減技術の研究について」

東京農業大学農学部 助教 有澤 岳〈農学博士〉

事例報告 「飼料用米の保管手段の低コスト化研究報告」

太陽工業株式会社・物流システムカンパニー マーケット室長 西村 哲

概要

開会挨拶で、当協会の海老澤恵子理事長が10年前の国際的な穀物の高騰による「畜産パニック」にいかに対応するかという具体的な課題について始まった耕作者、畜産者、消費者の耕畜消費連携による日本型循環畜産の交流集会として10回目を数える記念すべき集会であることを紹介

しました。同時に、その活動に基づいて創設した日本飼料用米振興協会の3回目となる中で、昨年からは飼料用米多収日本一を表彰する事業、当協会および東京農業大学と全国農業協同組合連合会（JA全農）の3者で飼料用米の新品種の委託実証事業などが行われ、今回の取り組みで多収日本一表彰式とシンポジウムの合同の取り組みとなったことを報告した。

連帯挨拶として日本生活協同組合連合会・総合運営本部・政策企画部長の小熊竹彦様からをいただいた。

活動報告 「飼料用米における生産コスト低減技術の研究について」は、東京農業大学農学部、助教の有澤岳氏が、飼料用米の新品種による密植と疎植の製品品質への影響について報告し、疎植の優位性を報告しました。

事例報告 「飼料用米の保管手段の低コスト化研究報告」は、太陽工業株式会社・物流システムカンパニーマーケティング室長の西村哲氏が、飼料用米の保管、物流におけるコストダウンに有効な物流に利用するフレキシブル・コンテナ（一般的にフレコンと呼称）の粳米、玄米の野外保管の可能性について研究成果について報告し、具体的な普及への提案を行いました。



農学部正門に設置した案内看板

総合司会 若狭良治

海老澤恵子 理事長



小熊竹彦 日生協政策企画部長



東農大農学部 有澤 岳 助教



太陽工業の西村 哲 室長

展示、試食、休憩（各自自由行動） 12:00～12:50

昼食時間を利用して、資料展示、試食を行いました。

資料展示参加団体

ヤンマーアグリ、パル・ミート（パルシステム生活協同組合連合会、食肉部門）、昭和産業、太陽工業、秋川牧園、東京農業大学、飼料用米ブランド化



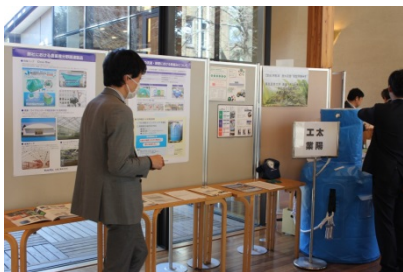
ヤンマーアグリ



昭和産業



パル・ミート（パルシステム）



太陽工業



秋川牧園



飼料用米ブランド化事業



東京農業大学



東京農業大学



飼料用米多収コンテストを開催します。

飼料用米生産者の生産技術の向上を目指し、多収を実現している先進的で他の優越的な経営条件を表彰し、その成果を広く紹介する「飼料用米多収日本一」を開催します。

- 参加できる方
 - 平成28年度の飼料用米の生産者
 - 多収品種（知事特選米）で取り組む方
 - 生産量が増える約1ha以上で取り組む方
 - 生産コスト低減等に取組む方
- 開催スケジュール
 - 5月2日 応募開始
 - 6月30日 応募締切
 - 1月末 確定収量の報告
 - 翌2月 審査
 - 翌3月 表彰式（東京都内）
- 賞状

成績優秀者には、以下の賞が授与されます。

 - 農林水産大臣賞
 - 知事特選米賞
 - 全米農業協同組合中央会会長賞
 - 全米農業協同組合連合会会長賞
 - 協同組合日本飼料工業会会長賞
 - 日本農業新聞賞
- 応募先及びお問い合わせ窓口

各ブロック事務局へ御相談下さい。
（次ページをご参照下さい。）

【主催】（一社）日本飼料用米振興協会、農林水産省
【協賛】JFA中央、JFA全農、協同組合日本飼料工業会



田んぼで育った飼料用米を食べて育ったおいしいお肉と卵を食卓に！

お米で育った畜産物

試食提供

パル・ミート（パルシステム生活協同組合連合会、食肉部門）、秋川牧園、東京農業大学、



第二部 シンポジウム 開会 12:55~13:40

基調講演 「水田のフル活用」と題して、農林水産省政策統括官穀物課の川合豊彦課長が毎年減少する米作に抗して、日本の高度に適している水田のフル活用について、国としての施策について詳細に説明を行いました。

基調講演 「飼料用米の利用推進について」と題して、農林水産省生産局畜産部飼料課の富田育稔課長が他の飼料用穀物との栄養面での比較、今後の利用見通し、利用の可能性、具体的な活用方法、事例などについて説明を行いました。



農林水産省政策統括官穀物課 川合豊彦 課長



農林水産省生産局畜産部飼料課 富田 育稔課長

休憩・会場設営 13:40～13:55

開会 13:55～14:50

飼料用米多収日本一表彰事業 報告と表彰式

司 会 農林水産省政策統括官穀物課 課長補佐 小口 悠

挨拶 海老澤 恵子 一般社団法人日本飼料用米振興協会 理事長

挨拶 磯崎 陽介 農林水産副大臣

表彰式 (授与者)

農林水産大臣賞 農林水産副大臣 磯崎 洋輔

政策統括官賞 農林水産省政策統括官 柄澤 彰

全国農業協同組合中央会会長賞 全国農業協同組合中央会 常務理事 金井 健

全国農業協同組合連合会会長賞 全国農業協同組合連合会 常務理事 岩城 晴哉

協同組合日本飼料工業会会長賞 協同組合日本飼料工業会 会長 鹿間 千尋

受賞者挨拶

有限会社 平柳カントリー農産 代表取締役 我孫子 弘美 氏

表彰式の開会にあたり、日本飼料用米振興協会 海老澤恵子理事長は、飼料用米の普及のために毎年このようなシンポジウムを開催して参りましたが、今年は同時に「飼料用米多収日本一」の表彰式を行うことが出来、大変嬉しく思っております。

「一昨年から農水省とこの事業について協議を重ねてまいりました。当協会の理事会・総会で審議の結果、まさに私共の協会が目指す飼料用米の普及の目的に合致した事業と考え、農水省との共同事業として実施することを決議しました。 ご賛同くださった4つの団体（全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、協同組合日本飼料工業会、日本農業新聞）からの4賞と、農林水産大臣賞、政策統括官賞と合わせて合計6賞、それぞれ単位収量の部と、地域平均の増収の部に分けて合計12の賞で表彰することになりました。

言うまでもなく、飼料用米にとって重要なことは、できるだけ手をかけずに、低コストで安全なお米がいかに沢山収穫できるかということです。低コストにするためには、面積当たりの収量をできるだけ多くすることです。 昨年5月にコンテストの募集を開始し、6月に応募を締め切り、年明けて1月末に28年産の確定収量を報告頂き、2月に審査会を行いました。

全国から448の応募をいただき、各地でそれぞれ工夫を凝らした意欲的な取り組みがされていることが分かりました。

輸入飼料に頼らず、国産のお米で日本の畜産が賄えるようになるためには、まだまだ、耕（作者）・畜（産事業者）・消（費者）の全体の理解と協力、そして連携が必要です。 本日受賞された生産者の皆さまの取り組みが、模範となってこれからの飼料用米生産の目標となり、励みとなってさらに生産が増えますように、そして私たち消費者も含めた日本全体が飼料用米の重要性について知り、広めることができれば、とても意義あることと思います。」と挨拶しました。

農林水産省の儀崎陽輔副大臣は「主食用米の消費量が毎年8万トンが減り続けている。我々は多面的機能を持った田圃を守っていかなければならない。一方で、日本の畜産は飼料原料を海外に依存しているなど現状を何とかしたいということで、政府としても飼料用米を進めてきた。今回の日本一の生産者は反収が932キロだった。しかし、昭和中期の米作日本一事業では1トン前後という事例もあったので、もうひと頑張りをお願いしたい。飼料用米の生産コストを下げるのは意義ある取り組みで、農水省としても今後とも後押ししていきたい」と挨拶しました。

表彰式で農林水産大臣賞を受賞した平柳カントリー農産の我孫子弘美社長は、「当社では飼料用米のほか、主食用米や大豆、えのきだけなどを生産している。これまで、大豆の後作として稲を植えると倒伏してしまい困っていたが、飼料用米にしてからは土壌窒素分を有効に活用することができるようになった。飼料用米への取り組みは、耕畜連携で稲わらを提供し圃場に堆多収米日本一表彰式受賞のあいさつを述べる我孫子氏肥を散布するなど、多くの人の協力があって初めて実を結んだ」と挨拶をしました。

受賞者の紹介

(1) 単位収量の部

褒賞	受賞者	ブロック名	都道府県
農林水産大臣賞	有限会社 平柳カントリー農産 代表取締役社長 我孫子 弘美	東北	宮城県
政策統括官賞	新山 実	東北	秋田県
全国農業協同組合中央会会長賞	三日市営農組合 組合長 荒木 嗣正	北陸	富山県
全国農業協同組合連合会会長賞	佐々木 隆	東北	山形県
協同組合日本飼料工業会会長賞	原田 芳和	九州	宮崎県
日本農業新聞賞	地崎 啓	北陸	富山県

(2) 地域の平均単収からの増収の部

褒賞	受賞者	ブロック名	都道府県
農林水産大臣賞	有限会社 平柳カントリー―農産 代表取締役社長 我孫子 弘美	東北	宮城県
政策統括官賞	原田 芳和	九州	宮崎県
全国農業協同組合中央会会長賞	地崎 啓	北陸	富山県
全国農業協同組合連合会会長賞	新山 実	東北	秋田県
協同組合日本飼料工業会会長賞	三日市営農組合 組合長 荒木 嗣正	北陸	富山県
日本農業新聞賞	山田 奈々	近畿	滋賀県

平成28年度 飼料用米多収日本一表彰式



海老澤 恵子 理事長



磯崎 洋輔 農林水産副大臣

平成28年度 飼料用米多収日本一表彰式



休憩・会場設営 14:50~15:00

第三部 シンポジウム 15:00~17:50

特別講演「飼料用米の生産から畜産への給与、製品の出荷作業」について、株式会社秋川牧園の

秋川 実会長により、日本の農地を守る・・故郷を守る・・米余り政策の最後のエースーである飼料用米への思いを講演していただきました。

「お米は、年、700万トンの生産でも余る見込みがある中で、飼料の消費量は、年間1600万トンで、その飼料原料の大部分は輸入である。日本の農地を守り、地方を守り故郷を守るには、飼料用米の活用なくしては考えられない。この飼料用米への国の政策の推進については、長期的視野に立った国民の理解と協力と応援が肝要である。そのためには、飼料用米の生産について、少しでも、コストが低減されるよう、その努力が求められる。そのコストの低減の大きな柱として、まずは、反収量の増加が肝要である。山口県は、その反収面では恵まれた環境にはないが、そこでの挑戦が、全国での取組について、参考となれば幸いである。」

活動報告「生協における飼料用米利用畜産物の供給活動」では株式会社パル・ミート（パルシス

テム生活協同組合連合会）**取締役商品本部長 江川淳氏**が、「こめ豚、までっこ鶏」を開発した経緯と取り決めた事項、飼料給与実績などの商品説明、供給実績、今後の可能性に説明を行った。

また、パルシステムグループでは飼料用米を使った畜産物を提供しているが、さらに昨年日月からは鶏ふんを原料とした側十文字チキンカンパニーのバイオマス発電所から電力を購入している。

発電所から出る焼却灰は肥料原料としてリサイクルされ、180ヘクタール

の飼料用米で活用されている。特定の生産者がつくった生産物を特定の消費者が食べ続けるという仕組みの中で、これまで以上の飼料用米の活用を拡大できるのではないかとまとめました。

事例報告「飼料用米を利用したSGS生産と活用事例」では、熊本県農業研究センター 畜産研

究所・飼料研究室 鶴田勉室長が「①飼料自給率向上対策、②飼料穀物確保・配合飼料高騰対策、

③米の需給対策、④水田保全対策、→水資源・環境・耕作放棄地、→災害対策、→農村対策・文

化」を飼料用米の推進意義を述べ、「今後目指す方向性として、①飼料用米（サイレージ）の地域内流通促進、②飼料用米調製に係るコスト低減、飼料費低減、③耕種・畜産農家の経営安定」と

「確立すべき技術体系として、①低コストで大量供給が可能な飼料用米サイレージプラント開発、②省力かつ効率的に調製可能な飼料用米サイレージ、TMR 調製プラント、③発酵TMR製造・加工技術、④飼料用米を活用したTMRの家畜への給与技術」について、研究参画組織との共同研究事例を詳細に説明報告しました。

課題提起「飼料メーカーから見た飼料用米普及のための課題」を**昭和産業株式会社の飼料畜産部 多田井友輝担当**が、飼料用米を使用する目的として、「①食料の安定供給の確保、②多面的機能の十分な発揮（国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等）、③農業の持続的な発展（農地、水、担い手等の生産要素の確保と望ましい農業構造の確立、自然循環機能の維持増進）」として、「現状ある水田を有効活用することが重要」であるという認識のもとで、全国生産目標の110万トンに向けて、「飼料メーカーから見た飼料用米普及のための課題」として「①数量拡大に向けたインフラ整備、②使用までにかかるコスト低減、③飼料用米を使用している畜産物のさらなる普及・拡大」について説明しました。

総括質疑応答 東京農業大学農学部畜産学科 信岡誠治教授の司会で行われました。

閉会挨拶 一般社団法人日本飼料用米振興協会・加藤好一副理事長により、次の三点を確認して、シンポジウムを終了しました。

- ①生産者の希望は、飼料用米の安定的な生産環境の保障です。助成制度に永遠不滅ということはありませんが、同時に、農産物に助成金を出して国産農業を支援するのは諸外国では当たり前のことです。日本の農業が、そのような環境の中で、何の保証もない中で維持できることではありません。世界の状況を学び、自立を促し、継続性のある農業、畜産を支える法制化などの努力が最重要な課題だと考えます。農林水産省は飼料用米を110万トまで増産していくという大きな方針を持っています。現在の倍の生産量となります。そうすると、現在でさえ、様々な問題が山積しています。
- ②生産、集荷、保管、流通・利用、製品の消費普及などの課題が噴出してくることは容易に予想できます。当然、施設などの設備投資が必要となるはずですが、そうすると飼料用米の助成を含めた持続性が担保されなくてはどうにもなりません。保管問題を積極的に追求していくことが必要です。飼料用米を飼料原料として確実に定着させていくためには、畜産生産者がこれを確実に飼料とすることが欠かせません。このような仕組みやそれに見合う保証なども検討することが重要となるでしょう。
- ③飼料用米の多収化努力を一層推進しましょう！全国各地に様々な努力が積みあがっています。こうした各地のチャレンジの情報を集約し、優良なチャレンジについて紹介し、共有しましょう。

朝11時から夕刻の5時までと長時間に渡り、盛り沢山の講演、報告があり、体力的にきついシンポジウムでしたが、内容的には作付け研究から、消費までの一貫した飼料用米に関する総合的な構成で分かりやすかったとの好評をいただきました。



第3回 飼料用米普及のためのシンポジウム2017

アンケートアンケート 33枚回収

会合名称 : 飼料用米多収日本一表彰式、(第3回) 飼料用米普及のためのシンポジウム2017

開催月日 : 2017年3月17日(金) 10:30~17:00

会場 : 東京大学弥生講堂(一条ホール)(300名 収容可能)、ロビー、会議室

今までに「飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会」に参加したことがありますか？

参加したことがある。() 回目) 下記の該当するシンポジウムに○を付けてください。

過去のシンポジウム: 第1回、第2回、第3回、第4回、第5回、第6回、第7回、第8回、第9回
シンポジウムのご挨拶、講演・報告・運営について、感想をお聞かせください。

① 理解できた。 ② 一部理解できない点があった。 ③ 理解できなかった。

		1	2	3
第一部 シンポジウム 開会11:00 開会 12:00				
	挨拶 一般社団法人日本飼料用米振興協会 理事長 海老澤 恵子	27	2	1
	連帯の挨拶 日本生活協同組合連合会 総合運営本部政策企画部長 小熊 竹彦	27	3	1
	活動報告 飼料用米における生産コスト低減技術の研究について	22	7	1
	事例報告 飼料用米の保管手段の低コスト化研究報告	19	9	1
展示、試食 (各自自由行動) 12:00~12:50		10	1	1
第二部 シンポジウム 開会 12:55~13:40				
	基調講演 水田のフル活用	24	6	1
	基調講演 飼料用米の利用推進について	25	4	1
飼料用米多収日本一表彰事業 報告と表彰式		9	1	
第三部 シンポジウム 15:00~17:50				
	特別講演 飼料用米の生産から畜産への給与、製品の出荷作業の取り組み	24	5	1
	活動報告 生協における飼料用米利用畜産物の供給活動	26	4	1
	事例報告 飼料用米を利用したSGS生産と活用事例	21	6	2
	課題提起 飼料メーカーから見た飼料用米普及のための課題	23	3	1
	質疑応答 司会 信岡誠治 東京農業大学農学部畜産学科 教授(農学博士)	15	4	1
	閉会挨拶 これからの日本の食料自給率の向上と水田の活用、瑞穂の国の持続を望んで	16	3	1

飼料米の今後の利用価値について理解できました。これからコスト効果が重要だと感じました。試食、非常においしかったです。

お米を食べた畜産物(肉や卵)は美味しいとか、健康にいいとか、何かありますか。そういうものでもないのかしら。自給は大事だと思うので、産地が工場ではなくというか、使うところがある程度備蓄した方が備えになると思います。(昔のサイロのように)。

できたお米と飼料用と区別できないように思うのですが、出荷時に混ざらないのかな?不安です。農林水産省の川合課長のお話がとても興味深く聞かせていただきました。(NHKのニュースを聞いていました。)

日本の農業を守っていくことが私たちの生き残る上での重要な道だと、改めて感じました。

60kgあたり、10aあたりのコスト、作業時間を知りたい。(表彰者について、発表者について)多収を達成できればコスト削減に結果としてつながるのは理解できるが、国のKPIでは、4~5割のコスト削減であり、今回の表彰者、発表者はどのくらいのコスト削減につながっているのかを示してほしい、と感じた。

飼料メーカーで飼料米を推奨しているものですが、現状の飼料米は補助金ありきの政策になっています。長期継続するよう働きかけてほしいです。飼料米のカントリーエレベーター等、年間通して飼料米が使える等も大事なことです。また、畜糞の還元を積極的に推進することも大事だと思います。

飼料用交付金の収量に上限があるのは、今回の表彰と矛盾?

水田を守って地域を守ること、自給率を上げること、食糧生産を安定・安全に行うことを立場が違えど、求めていることがわかり希望が持てました。

飼料米を拡大するために必要なシンポジウムだと思う。もう少し時間を短めにしてほしい。

構内地図を出してほしい。生協さんの取り組みをもっと広く宣伝してほしい。(知らなかった)
試食のゆで卵のゆでがゆるくて、水が飛び出して衣服を汚した。固ゆでにしておいてほしい。塩を付けさせてほしい。
自給、全体に拡大して発信してほしい。

内容が盛りだくさんで、それぞれの方向からの取り組みの事例報告があり、理解できた。多収日本一は生産者のモチベーションが上がるので継続を願う。

質問、意見

主催者へ

現状、飼料用米は補助金で可能ですが、将来、現状のやり方では厳しいと思います。今後、どのように進めて行く予定ですか？今の中にインフラ整備に資金を回すことが必要に思います。

Arikus(1?)-m@mm-food.com

農林水産省の川合豊彦課長様、「水田のフル活用」に関して

飼料米の補助金が8万円つくが、輸入品のトウモロコシの輸入減につながると思うが、トランプ大統領から輸入障壁と考えられるのではないか？100トンや200トンならあまり話にならないかもしれないが。

Masayoshi45@ares.eonet.ne.jp 〒520-0512 滋賀県大津市大物297 橋本正和(利?)

川合課長へ

アメリカは、飼料米の取り組みに反発し、交渉下手の日本がどこまで抗しきれぬのか心配。せめて、英国並みの食料自給率になっていく道筋を示してほしい。自給率向上は目標なくして達成はあり得ません。

飼料用米も大切だが、人間の口に入る麦(小麦、大麦)も国内でもっと生産すべきだと思う。農家のモチベーションでいえば、麦の方が人間のために作る考えると高くなると思う。

飼料用米を利用したSGS生産と利活用事例の鶴田勉さんへ

SGS保管の際にカビの発生等は問題になりませんでしたか？もし問題になっていたら、どのような対策を行ったのか教えてください。

一般社団法人日本飼料用米振興協会